

○ 令和8年度中央卸売市場事業会計予算案

1 市場事業会計の現状及び予算編成について

札幌市中央卸売市場における取扱量は、少子高齢化や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加に伴い減少傾向にある一方、水産、青果ともに円安や生産コストの上昇等により、総体的に単価高となった影響により、令和6年度の取扱額は1,546億円程度となっています。

令和8年度は、物価高騰に伴う物件費や人件費の増などにより営業費用が増加し、また、経年劣化が進む施設・設備の改修・更新工事が増加傾向にあることから、市場事業会計の収支は赤字となる見込みです。

食品流通における情勢の変化に的確に対応し、札幌市中央卸売市場が今後も「持続可能な強い市場」であるための計画として、令和3年度から令和12年度の10年間で計画期間とした「第2次札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクト」を令和3年3月に策定し、令和8年度は、計画期間の6年目となり、計画の見直しを行う予定です。

令和8年度予算は、本プロジェクトで掲げた取組を着実に実施するための予算編成を行っております。

2 令和8年度市場事業会計予算案の概要

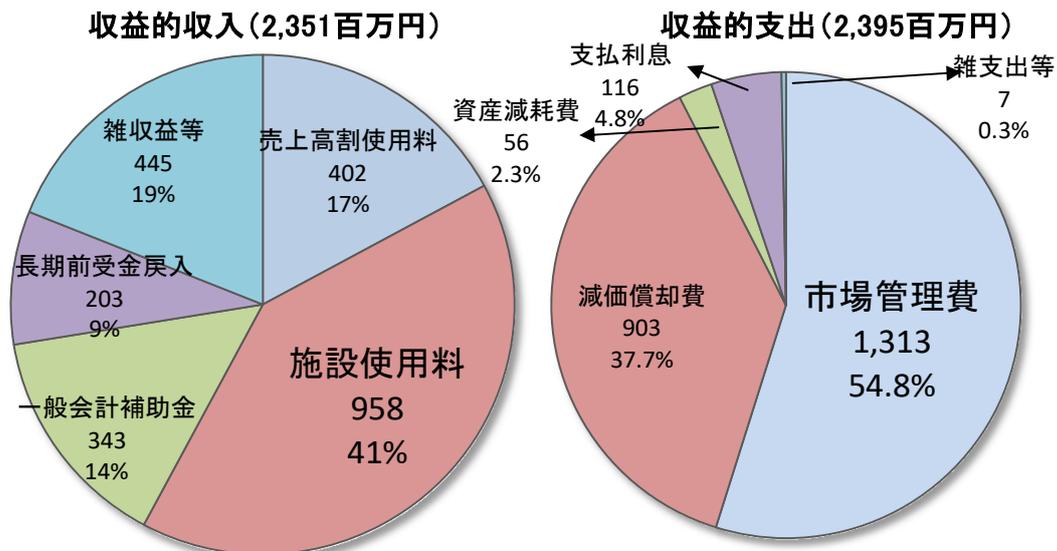
令和8年度市場事業会計予算案の主なポイントは、次のとおりです。

(1) 市場整備

自動制御中央監視装置などの施設に係る更新を行います。

(2) 収益的収入及び支出の状況

令和8年度予算案における収益的収入及び支出の状況は、下の円グラフのとおりであり、経年劣化による設備等の改修工事の増加傾向に伴い、減価償却費が増加したほか、市場管理費における人件費等が増加し、令和7年度予算と比べて49百万円収支が悪化しています。



注: 円グラフの金額には、消費税及び地方消費税を含んでおります。(単位: 百万円)